

6/29 早稿

装備開発 民間取り込み

防衛省、「技術指針」を初策定

防衛省は二十八日、他国

に先駆けた装備品の開発に
向け「防衛技術指針」を初
めて策定し、公表した。政
府が昨年十一月に閣議決定
した国家安全保障戦略など

府省庁、同盟国・同志国に
幅広く示し、協力を得るの
が狙い。民間技術が国の安
保分野に取り込まれ、官民
融合が進む可能性がある。

（参考）

指針は、防衛省による從
来の研究開発について「安
定性、確実性を追求するあ
まり実用化までの期間が長

防衛技術指針の ポイント

- 政府の安全保障関連3文書に基づき、他国に先駆けた装備品の開発を目指して策定
- 民間技術の取り込みを期待。企業、中央府省庁、同盟国・同志国に指針を提示する
- 防衛産業と関わりが薄かったスタートアップとの連携強化を明記
- 防衛装備庁に、画期的な機能や装備を創出する新たな研究機関を設置
- 10年以上先を見据えた重要な技術分野を例示

安保関連3文書に基づき、
防衛技術基盤の強化方針
や、重視する技術分野を眞
体化した。民間企業、中央
安全部門に取り込まれ、官民
融合が進む可能性がある。

指針は、防衛省による從
来の研究開発について「安
定性、確実性を追求するあ
まり実用化までの期間が長

く変化する状況に十分対応
できていない」と指摘。
「新たな手法」として、防
衛産業と関わりが薄かった
スタートアップ（新興企
業）との連携強化を行おう
とした。防衛装備庁には、画
期的な機能や装備を創出す
るために新たな研究機関を設
置するとした。

国家安保戦略に記載され
た「科学技術の進展に伴う
新しい戦い方」に対応する
ためには、民生分野の科学
技術に豊富な知見を持つ専
門家から協力を得ることが
必要だと強調した。安保と

科学技术・イノベーション
の橋渡しや融合を積極的に
進めるとも明記した。

具体的に「十年以上先も
見据えた重要な技術分野」
として十二分野を例示。電
磁波を使い衝撃波を抑える
バリアー、未来予測の強
化、相手に架空情報を見せ
て判断を誤らせる技術など
を挙げた。他に、大気中か
らエネルギーを取り出す新

技術、破壊されても自己修
復可能な素材、昆虫サイズ
の微小ロボット開発も例に
盛り込んだ。